日本行動計量学会会報

第13号
1977年10月30日

日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

「計量」と「なれ」

安本美典

私は、人間の心理、文化、言語歴史などの、人文科学の分野に、計量的方法を適用することに、もっとも大きな興味をもっている。

さて、人文科学関係の人が、しばしばのべる、数についての、誤ったテーゼがある。すなわち、「量的なものは、数であらわしうるが、質的なものは、数であらわしえない。」というテーゼである。

しかし、量的なもの、あるいは質的なものは、対象に、はじめからそなわっている性質ではない。温度にしても、速さにしても、それは、もともと、質的なものである。それらを、今日、数であらわして、だれもあやしまない。数量的概念は、事象に、はじめから存在しているものではなく、人間が、対象に対して数を与えるという積極的な行為によって生じている。

量的なものと、質的なものとは研究の対象がもっているちがいではなく、私たちが、研究のために用いる「ことば」のちがいである。

例として、教育測定をとりあげてみよう。

今日、私たちは、生徒の学力を測定するのに、試験の「得点」などの「量」であらわすことに、ほとんど疑問をもっていない。

しかし、西欧でも、生徒の学力は、長いあいだ、口頭試験や面接によって、いわば、「質的」にとらえられてきた。フランスの数学者ガロアが、エコール・ポリテクニクの試験をうけ、口頭試験のさいに、質問のくだらなさをおこって、黒板ふきを試験官になげつけて帰り、そのため、入学できなかったという伝説は、有名である。

筆記試験なら、通ったかもしれない。筆記試験という形式により、学力が「量的」にとらえられるようになったのは、比較的新しいことである。筆記試験が、客観的であることにおいて、口頭試験よりはるかにすぐれていることは、何人かの先覚者たちによって主張されたが、なかなか浸透しなかった。人間の「能力」という「質」的なものを、テストの得点という「数学」で「量的」にあらわすことへの異議が、しばしばとなえられた。

たとえば、アメリカで、最初に客観的教育測定を行なったのは、J・M・ライスである。ライスは一八九七年のインディアナポリスにおける、全米教育連合の会合で教育法の効果を、量的測定の結果から批判するという、教育測定運動の歴史からみるとき、きわめて意味のある発表を行なった。しかし、この発表は、嘲笑をもってむかえられ、聴衆のひとりは、

「それでは、あなたは、赤ん坊に対する母親の愛情は、どうやって『測定』するのですか。」

とつめよったほどであった。

このような異和感をよびおこすかどうかは、研究対象が、「量的」記述に適しているかどうかよりも、その分野の人々が、「量的」記述になれているかどうかの、「なれ」の要素が大きい。

行動計量学が、地道な息の長い活動を、必要とするゆえんである。

（日本行動計量学会理事・産業能率短大教授）

"サイバネティックスと社会" 国際会議に発表申込を！

SMC主催（本学会は協賛）の国際会議（委員長渡辺慧）が、五十三年十一月三～七日、東京と京都で開かれます。本学会の会員諸氏はふるって発表申込みをしてください。論文要旨提出期限は五十三年二月十五日、採否決定四月十五日、本論文提出期限は七月十五日です。詳細は事務局まで。

第五回総会報告

実行委員会副委員長　平松惇

第五回日本行動計量学会総会が昭和五十二年九月一日から三日まで岡山大学教養部二〇九番教室を借りて開かれました。

さて、昨年東京大学での第四回総会のときの学士会館での懇親会の席上、次は地方でと云う話がでていました。晩秋の頃、理事の方から来年は岡山で開催して欲しいとの依頼があり、岡山大学教養部の脇本和昌、平松惇、渡辺宗孝、広島大学総合科学部の安田三郎、小野茂、岡本雅典を実行委員として企画をたて地方で初めての総会を行うことにしたところ参加登録をした会員百七十四名（うち準会員二十四名）であった。地方としては多数の参加者があり、三日間とも常時百人を越す会員が熱心に講演を聞き討論した。

第一日目は、「生態・行動」、特別テーマ「薬効の判定」、総会および「医学・人口問題」のセッションであった。いろんな関連する分野を広く会員に聞いて欲しいと云う願いもあって会場を一つにした。このことはプログラム編成に無理をきたし、「医学・人口問題」のセッションでは、予定を四十分も超過して午後七時すぎまで座長豊川裕之・白崎和夫先生の好リードのもとで熱心な発表討論が続く結果となった。特別テーマ「薬効の判定」では順序ある分類デ・ータ、累積データに対する数量的取り扱いが多くなされた。

第二日目「心理・教育」のセッション、「調査・分析」のセッションでは、西川泰夫、岩坪秀一、安本美典先生の司会のもとで、我々の記憶とか意識・心の問題の計測およびその解析法について多くの発表があり討論なされた。

また、パネルディスカッション「情報と行動」では広大安田三郎・小野茂先生の司会のもとで、動物実験、人の行動解発刺激、ことば、うわさの伝播等をとりあげ情報と生きものの行動との関連についてひな段のパネラーの発言、パネラー同志の討論、パネラーとフロアーとの討論が、この日も懇親会の始まる直前まで熱心に行われた。

第三日目は特別テーマ「要因変量のききめの計量」では今までの分析法に前進法・後退法の手法を取り入れての判定法等についての報告があった。

特別講演「お化けを計量する」（林知己夫氏）では我々の心の中にひそむ現代人のお化けをどのように捕え、また分類整理してその内部構造をとらえ如何に解明するかと云う興味深い話と「統計プログラムパッケージの評価と作成構想」（浅野長一郎氏）外国でのパッケージ作成の現状と我国のプログラムパッケージ作成構想についての報告がなされた。

最後のセッション「方法論」ではデータ解析のいろいろな手法の開発についての発表がなされたが時間的に発表者に迷惑をかけた事と思っています。

総会運営について会員の皆様にはいろいろ不便をおかけした事と思いますが、それでも特別講演二件、特別テーマ九件、パネルディスカッション四件、一般テーマ四十四件の研究発表があり、懇親会も多くの方に出席して頂き、夜おそくまで会員の親交を深めることができ、大過なく総会を終えることができた事は、参加者各位とくに司会をお願いした方々の援助の賜とここに厚くお礼申し上げます。学会発足以来五回目の総会を終えて一つの方向をみつけるべく来年の総会を期待して報告を終ります。

（岡山大学教養部教授）

会則の変更

来年度よりの学会費値上げ

第五回総会で来年度（五十三年四月）からの学会費の値上げが決まった。正会員は千円、準会員は五百円のアップとなる。賛助会員は変更なし。改訂された会則11条は五十三年四月より施行される。

新「11、会費として正会員は年額四千円、準会員は二千五百円を、その年度の会費として毎年4月末日までに納めなければならない。」

学会費納入のお願い

学会費（正会員は三千円、準会員は二千円）を未納の方は至急ご納入下さい。送金は振替（東京八－一四八〇五六、日本行動計量学会）でお願いします。

会議議事録

◇理事会（七月二十三日）
於　統計数理研究所
出席者　理事　七名

1. サイバネティクスと社会国際会議（一九七八年度）に対する主催団体ＳＭＣからの「協賛」依頼について本学会はこれを受諾し協賛することにした。
2. 選挙管理委員会より役員（理事・監事）選挙の結果について報告があり、これを承認した。
3. 第五回総会の議長には山本俊一理事を推し、事業報告は各委員長が担当する。また、五十三年度よりの学会費値上げ（正会員四千円、準会員二千五百円）を総会に提案する。
4. 五十一年度会計決算報告を承認、宮原・肥田野両監事の監査を受け総会に報告する。五十二年度予算案（総額四百二十七万円）については、事務局の原案どおり総会にはかる。
5. 各種委員会報告

新理事会の構成決まる

理事長には林知己夫氏が再選

第五回総会を経て今期の新しい理事会が発足した。また、総会後の初会合で、新理事長に林知己夫氏（統数研）が再選された。

新理事会は、本年夏の役員選挙で選出された理事・監事と、会則七条による推薦理事で構成される。選挙の開票は七月八日、選挙管理委員会の手で行われた。投票数は、正会員七二五名中、一五〇名（投票率二〇・七％）、理事選挙における有効記名総数は七二二（無効三）、監事選挙は有効記名総数二六七であった。続いて七月二十三日、当選者の会合で十五名の理事が新たに推薦され、総会の承認を得たものである。

［理事長］林知己夫（統数研）
［理事］○碧海純一（東大法）、飽戸弘（東大新聞研）、浅野長一郎（九大理）、○阿部裕（阪大医）、○生沢雅夫（大阪市大文）、池田央（立大社会）、○岩坪秀一（電総研）、印東太郎（慶大文）、丘本正（阪大基礎工）、奥野忠一（東大工）、○茅陽一（東大工）、○木下冨雄（京大教養）、○木村栄一（日医大医）、芝祐順（東大教育）、○関寛治（東大東洋文化研）、竹内啓（東大経）、○戸田正直（北大工）、○西田春彦（阪大人間科学）、○野崎昭弘（山梨大工）、野元菊雄（国語研）、○肥田野直（東大教育）、古川俊之（東大医）、水野欽司（統数研）、○三隅二不二（阪大人間科学）、安田三郎（広大総合科学）、○安本美典（産業能率短大）、柳井晴夫（千葉大人文）、山本俊一（東大医）、○脇本和昌（岡山大教養）　∧○印は推薦理事∨
［監事］青山博次郎（統数研）
宮原守男（虎の門法律事務所）
印東太郎（欧文誌担当）
［運営］安本美典（委員長）
［総会］肥田野直
［刊行物企画］林知己夫
［研究事業］池田央、脇本和昌
［組織］柳井晴夫、脇本和昌
［庶務］水野欽司、岩坪秀一

3. 編集、運営委員の委嘱は担当理事を中心に候補者を選び次回理事会で決める。

◇理事会（九月一日）
於　岡山大学教養部
出席者　理事　十三名（委任状提出十五名）

1. 投票により、林知己夫理事長を引続き理事長に選出。
2. 理事の当面の会務分担をつぎのように決定した。なお、研究事業計画と組織検討の担当を新設し、学会活動や運営の在り方について検討する。
［編集］山本俊一（委員長）、野元菊雄（和文誌担当）、

◇理事会（十月二十四日）
於　統計数理研究所
出席者　理事　八名

1. 編集および運営委員会の新しい構成を候補リストに基き決定した。（4ページ参照）刊行物企画委員会の構成は従来どおり。
2. 編集委員のうち実務を担当する「編集幹事」の名称は従来慣用的な呼称であったが、今後公的なものとする。
3. 五十三年度総会の開催校は東京地区の大学を候補として、肥田野理事が交渉にあたる。
4. 各種委員会報告

◉会員（十月二十九日現在）
（正）七六三人　（準）一五三人
（賛助）三一法人

═ 議事録 ═

◇運営委員会（六月十三日）
於　統計数理研究所
出席者　運営委員　九名

1. 第十七回月例シンポジウム「学習のメカニズムと理論」を七月二日にSMCと共催する。司会は大泉充郎氏（電通大）。
2. 第七回講習会「多変量解析の理論と応用」（六月一日～三日）について担当の開原委員より報告。参加者は六十八名。講師の一人の竹内啓氏が病気のため柳井晴夫氏がその代理を務めた。

◇運営委員会（九月二日）
於　岡山大学教養部
出席者　運営委員　十二名

1. 池田委員長より任期終了の挨拶が、つづいて安本新委員長より就任の挨拶があり、活動全般について意見交換を行った。

◇運営委員会（九月十六日）
於　統計数理研究所
出席者　運営委員　九名

1. 第十八回月例シンポジウムは豊川裕之、開原成允両氏（東大医）をオーガナイザーとして年内開催を目標にする。テーマは「医学・生物学と統計」（仮題）。また脇本和昌氏がオーガナイザーで「教育データの計量」（仮題）を大阪で開催する。
2. 「クラスター分析」を内容とする講習会は、大隅昇氏（統数研）を中心にするメンバーで行うこととし準備を進める。

〃〃〃〃〃 運営委員、編集委員決まる

先の理事会で、つぎの方々に今期の運営、編集委員を委嘱することになった。（任期は2年）

◆運営委員会（三十九名）
［委員長］安本美典
［委員］池田央、井上通敏（阪大医）、今井四郎（北大文）、岩坪秀一、岩脇三良（中京大文）、海野道郎（関学大社会）、江川清（国語研）、岡太彬訓（立大社会）、大里栄子（福岡女短大）、大隅昇、開原成允、梶田叡一（日女大文）、梶谷文彦（川崎医大）、上笹恒（筑波大哲思系）、韓太舜（相模工大）、加留部清（奥論科学）、後藤昌司（塩野義）、小谷津孝明（慶大文）、近藤邁（日立）、斉藤堯幸（ユニバック）、佐藤創（専大経営）、佐和隆光（京大経）、繁桝算男（東北大教）、白崎和夫（東大医）、杉山明子（NHK）、田栗正章（千葉大理）、豊川裕之、中谷和夫（京大教養）、西川泰夫（上智大文）、野崎昭弘、林峻一郎（慶大医）、広瀬弘忠（東女大文理）、星守（電総研）、丸山久美子（青学大文）、水野欽司、谷島一嘉（東大医）、柳井晴夫、脇本和昌

◆編集委員会（七十二名）
［委員長］山本俊一
［欧文誌編集長］＊印東太郎
［和文誌編集長］○野元菊雄
［委員］碧海純一、青山博次郎、飽戸弘、浅井晃（千葉大理）、浅野長一郎、阿部裕、飯島泰蔵（東工大）、生沢雅夫、○池田央、石村善助（都立大人文）、井上通敏、＊岩男寿美子（慶大新聞研）、○岩田暁一（慶大商）、○岩坪秀一、梅沢勉（警視庁）、浦昭二（慶大工）、大島正光（医療情報システム）、丘本正、奥野忠一、小野茂（広大総合科学）、梶田叡一、○柏木繁男（東洋大工）、＊上笹恒、茅陽一（東大法）、小嶋外弘（同大文）、斉尾乾二郎（東大農）、斉藤陽一（東大医）、＊佐伯胖（理科大）、芝祐順、＊杉浦成昭（筑波大数学系）、鈴木達三（総数研）、関寛治、瀬谷正敏（青学大文）、竹内啓、戸田正直、南雲仁一、西田春彦、西平重喜（統数研）、○西村恕彦（電総研）、＊野崎昭弘、早川武夫（神戸大法）、林知己夫、肥田野直、広田安夫（九州歯大）、藤田広一（慶大工）、○藤本熙（統数研）、○古川俊之、○前田俊郎（専大法）、＊松原望（筑波大社工系）、松村良之（北大法）、＊丸山久美子、水野欽司、三隅二不二、三宅一郎（同大法）、＊宮原英夫（北里大医）、宮原守男、武者小路公秀（国連大）、村田昭治（慶大商）、村山孝喜（朝日新聞）、安田三郎、安本美典、○柳井晴夫、○山本幹夫（帝京大医）、○吉澤正（山梨大工）、吉田正昭（中大理工）、脇本和昌

（＊印は編集委員のうち実務を担当する欧文誌編集幹事、○印は和文誌編集幹事）

事務局から

◎住所や所属の変更届はハガキで。電話の問合わせはなるべく月・水・木にお願いします。